

私たちの知らない『野寄』 - 私が生きた野寄と歴史 坂本武士さん（四〇歳代）

著者	坂本 武士，福留 一毅，甲南大学久保ゼミ，久保はるか
雑誌名	「大学周辺地域の歴史を知る」シリーズ
巻	1
ページ	18-20
発行年	2017-05
URL	http://doi.org/10.14990/00002912

私が生きた野寄と歴史

坂本武士さん（四〇歳代）

一 だんじり

昭和二〇年、戦争の空襲により焼失したため、野寄にはだんじりがなかったのですが、今から三〇年ほど前、私が中学校一年生の頃に地域の人々が力を合わせて復活させました。

復活の際、地域の先輩方は自分達の手でだんじりを造ろうと考え、実際に作業小屋まで建てて試行錯誤していたそうですが、なかなか難しく、それを見かねた当時の長老が、その熱意を認め、だんじりを購入することが決定したと伺っています。今やだんじりは老若男女を問わず、地域の人々を繋げるコミュニケーションツールの核となっています。毎年五月四・五日に行われる、だんじり祭りの準備は、年明けすぐから始まります。事故や怪我がなく、楽しい祭りができるように、運行コースや時間など、こと細かに打ち合わせをしています。

また、だんじり祭り当日は地域の宝である沢山の子どもたちが参加してくれています。個人的には、小学校での行事などに地域の方々が積極的に参加し、良い関係を築いているから、親御さんも安心して「曳いておいで」と、言っていただけではありませんかと思っています。最近では、参加する子どもが多すぎて、だんじりの子供用ロープが足りなくなるといふ嬉しい悩みも出てきています。野寄のだんじりが復活するまで、他地区の同級生たちが自分の地区でだんじりを曳いているのが羨ましく、復活して自分の地区にだんじりがあり、曳けるようになったことが一番の喜びでした。

復活から三〇年が経ち、野寄にだんじりがあることが当たり前となってきています。先人の方の、だんじりに対する熱い思いを若い世代に伝えていければと考えています。

五 震災について
 当時は大学生で、幸い家族は無事でしたが、自宅が一部損壊してしまいました。震災発生当日の夜は野寄会館に避難しましたが、とても人が多く、入ることが出来ず、自宅が倒壊するの

五 震災について

「都会の中の村」という位置づけだと思っています。最近では新しいマンションや戸建ても増えていきますので、地域のことを知らない方が多いと思いますが、新しく住民になられた方々にも、どんどん地域行事に参加していただけるように、私も微力ながら懸け橋となり、地域のつながりで、子どもたちが安全で住みやすい町であり続けられれば良いと思っています。

四 野寄について

小学生の頃は甲南大学の裏山などに友達と探検に行くことが日課でした。見つけた野池で天然記念物のモリアオガエルに遭遇したこともあります。当時は住吉川が護岸されていなかったこともあり、沢山の生き物が棲息していました。川の中に入り大きなモクスガニを捕まえたりしたことが楽しかった思い出です。

三 子どもの頃の思い出



盆踊り大会 30周年記念 平成 21年



本山第二小学校 ログハウス



坂本さん 11月17日撮影

二 盆踊り

盆踊りは、子どもたちにとって、夏の楽しい思い出となるように、地域の理解と協力を得ながら青年会の主催行事として、野寄公園で八月に毎年行っています。昔から、来てくれた子どもたち全員にアイスクリームを配っているのですが、私も子どもの頃は、それが楽しみだったことをよく覚えています。今は配る側となって、子どもたちの喜ぶ顔を見ることが出来て嬉しく思っています。私は野寄青年会にも所属しており、住吉川クリーン作戦などの色々な地域活動に参加させていただいています。他にも、大日女神神社の秋祭り、防災訓練、そして年の瀬には年末特別警戒として、拍子木をもって地域内をパトロールしています。大晦日には新年を迎えるにあたり、大日女神神社で薪を焚き、神様を迎える「福火」という行事のお手伝いもさせていただいています。

青年会って???

青年会とは、地域の祭礼に関する協賛、スポーツその他の活動を通じて地域社会の健全なる発展を目指し、会員相互の親睦と意思の疎通を計りながら積極的に地域活動に参加する事を目的とする団体です。

(野寄青年会ホームページより)

ではと、車で寝泊まりしたことを覚えています。野寄公園はテント村となり、私の母校である本山第二小学校も避難所になっていました。現在、本山第二小学校には震災資料館としてログハウスが建っています。震災後に群馬県の会社から寄付を受けて、神戸市内の六校園にログハウスが建てられました。時が経ち老朽化や諸事情で他のログハウスが無くなっていくなか、今も残っているのは本山第二小学校のみで、それを保存するために学校開放運営委員会の中に震災資料館保存委員会が立ち上がり、私はその委員長をさせていただいています。ログハウスには、震災で亡くなった四名の児童の遺影とともに、当時の貴重な資料、そして各地から送られてきた励ましの手紙や寄せ書きなどが展示してあります。それらの貴重な資料は劣化していくため、どう残していくかを保存委員会と学校で連携しながら考えているところです。普段は一般公開されていませんが、毎年一月の震災メモリアルウィークの時にログハウスが開放され、見学ができる日がありますので、是非とも足を運んでみてください。

取材日 二〇一六年一月一七日

編集 福留一毅